

JICA 日系社会シニア海外協力隊の小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

私の任期も残すところ2カ月あまりとなりました。そんな中、子供クラスを立ち上げましたので、今回はその様子をお伝えします。

幼児教育の専門家でもない私にとって、子供クラスの立ち上げは正直なところ想定外でした。でも、ある日、幼児教育の勉強をしている学生が、作文の授業で『今年、幼児教育の大学を卒業します。日本語はまだですが、いつか子供に日本語を教えたい』と書いてきました。とても心に訴える内容だったため、『何とか彼女の夢を実現させてあげられないか』と考え始めたのがきっかけでした。

2月、『1. 遊びの中で日本文化を自然に体験する、2. 遊びの中で試したり、工夫したりすることを学ぶ、3. あいさつや後片付けなどの礼儀を自然と見につける』という教育方針をたました。そして、手作りのポスターや facebook で宣伝したあと、説明会を行いました。しかし、募集に応募してきた子供はたった二人。ちょっと残念。でも、とにもかくにも子供クラスをスタートさせることにしました。クラスは毎週土曜日午後 2:00~3:30、私が帰国するまでの3カ月間コースです。



おかげさまで、子供クラスをスタートさせて1カ月をたったころには子供の数も4人に増えました。

プリアちゃん8歳、マキシモ君8歳、サビナちゃん5歳、ノア君5歳です。日本の幼稚園のように自由遊びをする場所も設備もないため、まずは絵本を読んで子供たちに心の準備をさせます。

そして『はじまるよ』の歌に始まって、ボールなどで体を動かす遊び、工作へと進み、『お片付け』の歌、『お帰りの歌』を歌って、昔からおきまりの『先生、さようなら、みなさん、さようなら』で終わります。

私も、孫が保育園へ通っていたころのことを思い出しながら、子供と一緒に楽しく活動しています。



先日、同じ JICA 海外協力隊員で幼児教育の専門家である友人にもわざわざブエノスアイレスから来てもらい、日本の幼児教育について指導してもらいました。少しずつですが、子供教室も軌道に乗り始めているように思えます。私の帰国後は次の隊員が引き継いでくれるでしょう。



3月9日から4月13日までは子供の日をテーマにした活動、そして4月20日から6月8日までは七夕をテーマにした活動です。子供たちは日本語の絵本にも関わらずどんどん絵本のなかに引き込まれ、『OTRA VEZ, OTRA VEZ (もう一度、もう一度)』と催促してきます。子供ってすごいですね。そして、工作も大好き。鯉のぼりの工作も『旗ができた、旗ができた』と自慢げでした。



活動の最後になってアルゼンチンの子供たちと接する機会が与えられて、本当にうれしく思います。今週から七夕がテーマです。学校の隅にある竹を切って、飾りつけをします。最初の飾りは天の川の切り紙でしょうか。

